

14 乳幼児とのふれあい

指導案

ねらい	乳幼児から3歳までの成長発達や親子の様子、絆の強さを知る。 誰もが一人では育つことなく、大切に育まれ支えられてきたことについて、親や家族に感謝する気持ちをもつことを目指す。
準備	地域の乳幼児学級など、乳幼児を持つお母さんに参加依頼をする。(乳幼児の年齢・月齢と人数の確認をしておくことよい。) 生徒を4～5人のグループに分けておく。乳幼児のおもちゃ、絵本などを用意しておく。 ワークシート1・2、資料1・2

時間	活動内容	留意点
(90分)	ねらいの確認	◇乳幼児(0歳～3歳)を持つ親子と接するにあたり、乳幼児の体、保護者の生活について事前を知っておく。
5分	「乳幼児とふれあい、その保護者から話を聞き、親子の絆を感じ取ろう。」	
	ワークショップ	
10分	「ワーク1」(ワークシート1) ◆どのようにふれあいたいか書く。 ・抱っこしてあやす。 ・おもちゃを使って遊ぶ。 ・絵本を読む。	◇赤ちゃんの月齢が低ければ低いほど、扱いに気をつけるように助言する。 ◇一緒に遊ぶためのおもちゃや絵本など、何が必要か考えるように促す。
10分	[ワーク2] (ワークシート1) ◆乳幼児の保護者に聞きたいことを書く。 ・生まれた時、どんな気持ちでしたか。 ・どんな思いを込めて名前を付けましたか。 ・一番大変だと思ったことは何ですか。 ・どんな時が嬉しいですか。幸せですか。 ・一番気を付けていることは何ですか。	◇乳幼児との生活で大変なこと、幸せなことのどちらか聞けると良いことを助言する。 ◇乳児の一日の生活・(資料1参照)をみて、24時間一緒にいる保護者はどんな気持ちなのかを考えて、質問を出すと良いと助言する。 ◇乳幼児の体の変化(資料2参照)を確認し、安全に気を配るよう助言する。
35分	=乳幼児親子とのふれあい=	◇笑顔で接する良い姿を認める。 ◇保護者との話し合いグループに分かれたら、自己紹介をして、質問タイムとする。 ◇保護者からも生徒に質問してもらおうように促す。 ◇時間配分を考え、グループ内全員に話す機会を与える。
20分	[ワーク3・4] ◆感じたことや考えたことを書き、交流する。(ワークシート2)	◇グループの人の話を聞き、自分では気付かなかった幼児の姿や、仲間の感じ方を認める。 ◇保護者の乳幼児への接し方や子どもとの生活について聞いた話で印象に残ったことを書きとめる。
10分	振り返り 自分にもこんな時があって、きっと母親は大変な思いをしていたのだと思う。元気に育ててもらったことに感謝している。	◇質問はできたか、保護者からの質問に答えられたかを振り返り、記入するよう助言する。 ◇乳幼児との生活は、かわいいだけでなく大変なこともあることを確認し、誰もが保護者に支えられ育ててもらったことを自覚し、親に感謝の気持ちをもてるように価値付ける。

<親になったときに生かしてほしいこと>

大切に育まれ、支えられてきた自分を振り返り、親や家族に感謝する気持ちをもつとともに、子どもを大切に育み、愛情をそそぐことができる親であってほしい。

乳幼児とふれあおう

乳幼児の保護者は、どんな思いでわが子と接しているのでしょうか？親の愛情と乳幼児との絆を感じながらふれあってみましょう。

ワーク1

乳幼児（0～3歳）とのふれあい、どんなことをしたいですか？
また、その際に気をつけることを書きだしてみましょう。

ふれあい遊び	対処法・気をつけること
例) 抱っこする	首が座っているか確認し、好ましい抱き方を母親に聞く。

ワーク2

乳幼児の保護者に聞いてみたいことを書きだしてみましょう。

例)・子どもの名前の由来。誰が、どんな思い込めて名付けましたか？

・どんな時にかわいいと思い、どんなことが大変ですか？ など

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

乳幼児とのふれあいを終えて

ふれあいを通して、感じたことや気づいたことをまとめてみましょう。まとめたことをグループやクラスで発表しあえるといいですね。

ワーク3

乳幼児はどんなことに興味を示していましたか？乳幼児とふれあい、感じたことや考えたことは？

ワーク4

保護者の方はどんなふうに乳幼児と接していましたか？保護者に話を聞いて、わかったこと、感じたことや考えたことは？

《今日を振り返って》

14 乳幼児とのふれあい

資料

	乳児前期		乳児後期		幼児期			
	新生児	3か月	6か月	9か月	1歳	2歳	3歳	
運動	指しゃぶりをする	首がすわる ガラガラをにぎる 寝返りをする	ハイハイをする 近くの物に手を伸ばす	ひとりでお座りができる つかまり立ちができる ひとりで立つ	ひとりで歩く クレヨンなどで殴り書きをする	両足でぴよんぴよん跳ねる	走る 三輪車に乗ってこぐ はさみを使う	
言葉		声を出して笑う	喃語を言う	バイバイ、さよならなどの言葉に反応する	一語文を言う(パパ、ママ、マンマなど)	自分の要求を言葉で表現する	なぜ?という疑問が増える 姓名が言える	
情緒	目をあわせる 快、不快をあらわす	親の顔を見て微笑む 親しい人に甘える	人見知りをする	やきもちを表す わざと逃げて追いかけさせる	人から評価されることを喜ぶ	上手いかならないことに癪癪をおこす	だましがきかなくなる 親から離れて友達と遊ぶ時間が増える	
遊びの内容・ 具体例	目・耳・感覚を使って楽しむ遊び(ガラガラ・ティッシュペーパーを箱から出す、なんでも口に入れる)							
			手足を動かし楽しむことが始まり、年齢と共に獲得した運動能力を発揮すること自体を楽しむ(手押し車・追いかけてこ・ブランコなどの遊具・ボール遊びなど)					
					外界からの働きかけを受け入れ、楽しむ遊び(お話・絵本・音楽・映像など)			
						身近な生活を模倣したり、体験した事柄を自分なりに組み立てて再現したりする遊び(ごっこあそび) 物を組み立てたり、作りだしたりする遊び(積み木・粘土・折り紙・工作など)		